

「錦江町と島津家の軌跡を歩む」

「三国名勝図会」

今日は、「三国名勝図会」からの情報をもとに制作しました。

島津氏は、鎌倉時代から江戸時代まで続いた、薩摩を根拠地とする大名家で鹿児島島の歴史に大きな影響を与えた氏族の一つです。島津家は、錦江町とも関わりが深く、史跡や町史などにも様々な記述が残っています。

今日は、島津家の手掛けた三国名勝図会から錦江町と島津家との関わりについてひもといてみたいと思います。

江戸時代後期、三国名勝図会の地誌編纂を命じた島津斉興（島津氏第27代当主）は、薩摩国（薩摩半島）・大隅国（大隅半島）・日向国（宮崎県の一部）の神社や寺院・名所風景など記述とともに図絵も描いています。錦江町内では池田の旗山神社や田代の花瀬周辺など描かれ、そのほかにも高城（現在のすずしろの里周辺）や勝尾城（田代麓招魂墓碑周辺）なども記述

されています。さながら今から300年ほど前の観光ガイドブックのような役割として作られたのではないのでしょうか。

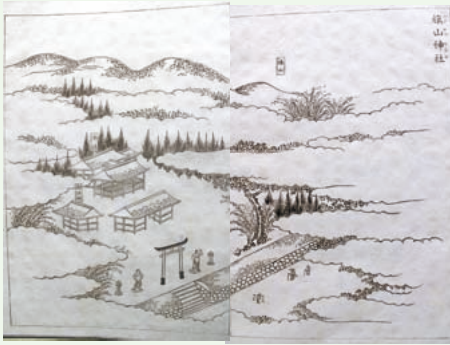
大根占・田代の諸山合記を解釈すると、大根占には假屋之村・大根占村があり高山を剥石峰（はぎいしのみね）と呼ぶ。土地の者の狩猟地である。山海があり幸ある場所。とあり、田代には最高峰を荒西嶽という。絶頂に大きな平石がある。

る。俗に天狗の住処と言っている。その他、白石ヶ塚峰・重嶽・六郎館嶽・赤木牟礼嶽などがある。みな高峰である。土地の者は多く狩猟を業としている。とありま

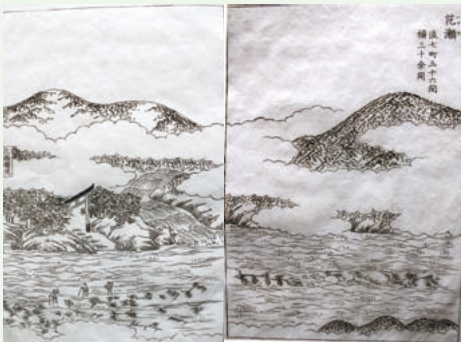
す。この三国名勝図会からみると、すでに江戸時代後期には寺院や山・川などが詳しく書かれていることから、人々の生活や人の往来が多くあったのではないかと思われる。また、土人多く獵を業として、と記述

があることから、多くの地元住民が住み、狩りを生計の糧としていた事が分かり、とても興味深い資料となっています。

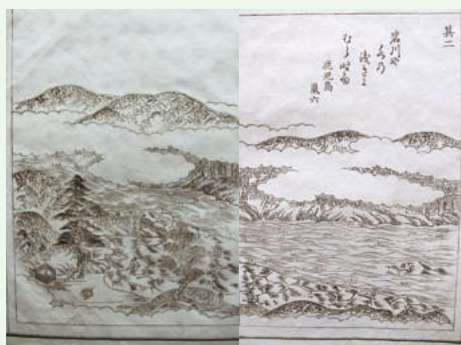
三国名勝図会の挿図だけみても当時の様子や景観がよく分かるようです。来月からは、島津家が手掛けた三国名勝図会の記述や挿図と現代の生活や景観を比べながら歩いてみたいと思います。



三国名勝図会から旗山神社



三国名勝図会から花瀬



三国名勝図会からお茶亭跡

錦江町の歴史や言い伝え、昔の遊びや行事など、特集を組んで取り上げて行きたいと思います。町史や各資料より調べ掲載していきますが、掲載した内容と違う見解の資料などありましたら、錦江町役場企画課広報へご連絡下さい。錦江町の歴史や文化をひも解き、観光や地域づくりに繋げて行きたいと思います。また、個人でお持ちの歴史的資料や写真、言い伝えなどありましたら、取材や調査に行きたいと思いますのでご連絡下さい。

【問い合わせ先】 錦江町役場 企画課 Tel 0994-22-3032